

医療機器産業ビジョン

2003年2月4日

産業ビジョン

1

基本認識

- 人々の関心は健康・環境・教育(交流)に
「生産」 → 「生活」 (安全・安心)に
- 医療(学)に求めるもの

- ◆ 全人的医療、QOLの向上
- ◆ EBM医療
- ◆ 病気の治療と予防医学
- ◆ 医学・歯学・薬学と工学の融合
診断・治療機器、バイオニクス
- ◆ トランスレーショナルリサーチ

産業ビジョン

2

技術革新と医療費

	第1次革新	第2次革新	第3次革新
時 期	戦後～60年代	70年代～現在	現在～
主な進歩	抗生物質などによる 感染症の治療 外耳手術の進歩(手 術法、人工心臓など)	MEなどの診断・検査 技術の進歩(CTなど) 治療機器(内視鏡、 レーザー、放射線など の発展) 人工臓器、各種医療	疾病の発生機序など を遺伝子レベルで 解明 遺伝子治療 遺伝子診断による 疾病の予防
基盤になる科学技術	生物学、細菌学 化学	物理学、コンピュー ター科学、電子技術	生命科学、ゲノム科 学、情報科学
対象疾患	急性疾患 (感染症など)	慢性疾患 (生活習慣病)	慢性疾患(生活習慣 病、加齢に伴う疾患)
医療費への影響	医療費削減型	医療費誘発 ・増大型	医療費削減型？

産業ビジョン

3

ビジョンを見て

- 認識は整理されている
- 医療機器産業の問題点も抽出されている
- 国がすべきことが示されている(アクション・プラン)

- * 研究開発投資の拡大
- * 知的基盤(知的財産権など)の整備
- * 人材の養成
- * 治験体制の整備

産業ビジョン

4

医療機器産業ビジョン

背景

- ・グローバル競争の激化と国際競争力の低下
- ・内外価格差問題
- ・輸入依存度の上昇
(平成元年23%→平成12年42%)

↓

国民の保健医療水準の向上に寄与

- ・医療機器産業の現状と課題について分析
- ・これらについて産業界と認識を共有
- ・各企業に対して国際競争力強化のための行動を呼びかけ

→ 国の具体的な**支援策(アクション・プラン)**を取りまとめ

産業ビジョン

5

ビジョンを見て

- **研究開発費は本当に少ないのか？**
 - * 新医療機器開発の原資をどう確保するのか
 - * 革新的新技術開発に対するインセンティブは
 - * 「治験の規制緩和」と患者の「安心・安全」の調和
- **省庁の枠を越えた体制**
 - 同じようなプロジェクトが多い？
 - 新技術の萌芽研究(文科省)、商品化開発(経産省)
 - 治験(厚労省)

産業ビジョン

6

世界的な研究開発競争の激化

- ・我が国医療機器企業売上高上位数社の1社当たり研究開発費は米国企業比で1997年の6分の1から10分の1に。
- ・1社当たり売上高研究開発費比率は低下傾向にあり、米国企業の半分以上。



産業ビジョン

7

主要国の研究開発費

	研究開発投資額 (億円)	売上高に対する 研究開発費割合 (%)
米国	4,663	6.7
欧州	1,306	6.9
ドイツ	1,496	9-10
フランス	766	8.7
イタリア	325	6.8
英国	232	5.0
スペイン	83	4.0
その他	1,306	4.3
日本	718	4.5

出典) 米国-欧州: susomei(2000)「European Medical Technology and Devices Industry Profile」
 日本: 厚生労働省(1999)「医療機器産業実態調査報告書」

産業ビジョン

8